

大阪府四條畷市レベル4モビリティ・ 地域コミッティ会議議事録

1. 概要

- ・日時 : 令和7年7月7日(月) 10時00分～11時00分
- ・場所 : グリーンホール田原 1階「なるなるホール」(Web併用)
- ・参加 : (一) 近畿運輸局 自動車技術安全部 技術課 吉岡課長(代理:松本氏)
(●) 近畿運輸局 交通政策部 交通企画課 大塚課長(代理:長田氏)
(一) 大阪国道事務所 地域調整課 森本課長
(○) 近畿経済産業局 地域経済部
地域連携推進課 岡田課長
(▽) 大阪府警察本部 交通部交通総務課 西村課長補佐
(一) 大阪府四條畷警察署 交通課 天羽課長(代理:澤井氏)
(一) 近畿総合通信局 情報通信部
情報通信振興課 新山課長
(一) 大阪府 都市整備部 交通戦略室
交通計画課 江藤課長
(△) 大阪府 スマートシティ戦略部
戦略推進室 戦略企画課 狩野課長(代理:服部氏)
(一) たわらコネクトカート 田中会長(代理:中氏)
(一) 株式会社エクセイド 伊藤代表取締役(代理:服部氏)
(一) 建設技術研究所 道路・交通部 吉岡副部長(代理:鹿島氏)
(一) 名古屋大学 赤木特任教授
(一) 奈良先端科学技術 大学院大学 笠原領域長、仁田氏
(一) 龍谷大学 井上教授
(一) 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
事業推進部長 保田部長
(□) 地域自治組織の代表者 奥田氏(代理:松本氏)、
上田氏、高橋氏
(☆) 四條畷市 市長 錢谷市長
(一) 四條畷市 総合政策部副参事兼企画広報課 溝口課長
(◇) 四條畷市 都市整備部 都市政策課 北田課長
(◎) 四條畷市 都市整備部次長兼建設管理課 木邨課長
(◆) 四條畷市 田原支所 笹田支所長 上嶋次長 塩見主任

※質疑応答時に発言が無かった参加者は(一)としている。

2. 資料

- ・大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティ会議次第
- ・令和7年度事業について
- ・大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティ設置要綱
- ・大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミュニティ構成員名簿

3. 議事要旨

令和7年度事業についての説明、レベル4に向けた「路車協調」と「遠隔制御（遠隔アシスト）」の実証実験の取り組みについての確認等を行った。

また、会議終了後に自動運転車の試乗および遠隔監視センター見学を行った。主な議事は以下のとおり。

3.1 概要について

- ☆ 説明を受けた内容について、皆さんから忌憚のないご意見等をお願いしたい。
- 不採択後に、別の申請をしているとのことだが、違いが出るのか教えてほしい。
- ◆ 国土交通省への申請内容は遠隔制御（遠隔アシスト）システムと信号協調システムだが、不採択となった。内閣府への第2世代交付金の申請内容では信号協調システムは令和8年度に1年遅れで実施することとしている。実施内容は同じ。
- △ 国土交通省と内閣府の申請では補助率が異なる。国土交通省から不採択を受けたため信号協調が今年度はできなくなったが、もし、内閣府の申請が通らない場合は、今年度の取り組みがさらに遅れるのか。遠隔監視システムについては、走っている車とやり取りができ、ブレーキの作動などの制御を外から操作できるということだが、どのレベルまでできるのか。全国で見てもかなり先進的な事例となると思うが似たような事例があるのか伺いたい。
- ◆ 内閣府の申請が通らなかった場合は、レベル4への取り組みは遅れる。次年度に再度取り組みたいとは思っている。遠隔監視センターから操作できる遠隔アシストについては、ハンドルやブレーキ操作ができるコックピットを作る実証実験を考えている。先進性については、大阪府下では初めての実施である。遠隔監視については視察に行かせてもらった静岡県で実証実験をされている。
- 現在レベル2で実装されているがレベル4に向けてどこまでのことをするのか。
- ◆ 今年度はレベル4に向けて、資料P6の路車協調システムの実証実験を行う。国が2027年度にレベル4を100か所で実装と掲げており、その1つになれるように取り組みを行っている。補助金採択の状況等により遅れる可能性はある。
- 先ほど、静岡県の話が出ていたが、全く同じことをするのか、別のことをするのか教えていただきたい。
- ◆ 静岡県では、遠隔制御ができる体制になっていたが、システムがあったもののハンドル操作はできない段階だった。その後レベル4は永平寺、四国でも出てきて

いる。先進性でいうと、遠隔制御は四條畷市が前に立ってチャレンジしているところだと認識している。

- 静岡県ではまだ実装できていなかったということか。
- ◆ その時点ではシステムのモデルを市民に見てもらっている状況だった。
- 6丁目の未利用地について伺いたい。アウトドアフィールドづくりについての説明があったが、これからどのように取り組まれていくのか。
- ◆ 自動運転車を運行させるにあたり、その行き先が重要と考える。6丁目の未利用地を開発し、市内外の方に訪れていただける場所づくりの構想を持っている。前年度に基本計画を立て、民間が開発することになると大きなお金がかかることがわかった。市民と共に開発することにより郷土愛をもった土地になると考え、大阪公立大の教授に助言をいただきながら取り組みたい。他市に市民と一緒に取り組んでいる事例があるので、参考にしながら参加していただく方を今年度中に募集する。
- 今年は市民を連れて見学に行くようなことはないのか。
- ◆ 3月頃に6丁目の未利用地と一緒に歩きたいと考えている。たわら通信等を通じて地域の皆さんに知らせたいと思っている。
- 府の先進的な事例を見学するようなことは考えられているか。
- ◆ 他市事例を見に行きたいという声をいただいたら、実施することも検討したい。
- ☆ 自動運転にかかわらずまちづくりについてもご質問があればお願いしたい。
- ▽ 路車協調システムで昨年度実施されていない場所の設置が決まっていれば教えていただきたい。
- ◆ カメラの設置場所は、昨年設置した資料P 6 No. 1の田原台3丁目付近に加え、そこを右折した先にもセンサとカメラをつけて実証実験を行う。昨年度、対向車を検知できなかった場合があるため、令和7年度は精度を上げる。この場所が最も危険な場所なので重点的に行う。No. 2以降はその後また検討する。
- ▽ No. 3と5はまだ検討中ということか。
- ◆ 資料6に記載しているNo. 1から5については、昨年度国土交通省に路車協調を実施したい計画を出した内容だが、国土交通省の予算もあり、優先順位の高い順に実施することになっている。今年度はNo. 1を実施する。3と5は次年度以降実施できるように進めたいと考えている。
- ▽ 実施の際には共有をお願いしたい。
- ◇ 第2世代交付金を申請されているとのことだが、当初の予定より、事業の着手が2か月程度、遅れている。令和7年度中に事業の完了は見込めているのか。
- ◆ 8月の中下旬に内示と聞いている。今年度中に実施完了と考えている。
- △ 遠隔制御まで実施するのは全国的に見ても珍しい。また、遠隔監視・制御のモニターやシステムを市役所（支所）のロビーという開かれたスペースに設置することも珍しく、取り組みが市民に開かれているという点が素晴らしい。住民理解を向上させる機運醸成にも繋がっているように思うが、住民の皆さんからの評判のようなものを教えてほしい。

- ☆ 田原支所には、遠隔監視・制御のモニターを設置しており近未来感がある。時代が変わり、住んでいる世帯層が高齢化しつつあり、地域公共交通の課題が出てくる中で先進的な取り組みをしていると伺うことは多い。
- △ 自動運転のような先進的な実証は、住民理解の面でも開かれた領域で実施されるべきだと常々思っており、四條畷市の事例は他市でも参考になるのではないかと思う。府内の好事例として紹介していきたい。
- ☆ この地域では公共バスが走っており、この自動運転車はバス通りとは異なる入り組んだ場所をフォローする役割を担っている。新しいことをするときには不安感が出る場合もあるが、田原地域の住民性もあり受け入れてもらえている。今後も一緒に取り組んでいただきたいと思います。
- ◎ 自動運転車は時速19キロ程度で走っていることが多いと思うが、それを越えている事例や全国内の取り組みで遠隔システムを導入している事例はあるのか。
- △ 自動運転車の速度に関しては、実施エリアに合わせたそれぞれの運用がなされている。府内では、時速19キロ以下のカートを活用したボランティア型の自動運転の事例として、高精度三次元マップを活用する四條畷市と、電磁誘導型の河内長野市の2市が先行している。また、堺市や岸和田市ではバス車両を使った自動運転の実証が進められており、時速35キロは出ている。車両速度によって良い悪いということではなく、それぞれの利点や課題に合わせ取り組みが進められている。遠隔監視については全国の自動運転の実証でも実施数は増えてきているが1人で1台を監視する事例がほとんどだが、1か所で複数台を監視しないと本当の意味でのコスト削減や人員不足解消につながらない。有名な先行事例である福井県永平寺町では、この複数監視が実施されている。必ずしも全国のトップ事例とならなくてもいいが、先進的な要素にも目を向けるなど、バランスを取って事業に取り組む必要があると思う。
- ◎ 自動車メーカーの取り組みは今どのような状況か教えていただきたい。
- 各メーカーの動きはわからないが、自動運転の取り組みはしている。全国の取り組みとしては、役割や位置づけが市町村で異なり、走る道も変わってくる。例えば、車両自体は80キロ出るが制限35キロとしている地域、大きな道を走ると19キロでは他の交通を阻害するなど地域や交通の状況をみながら進められている。
- ☆ 様々なご意見をいただきありがとうございました。

以上